

こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森

Tel: 04-7132-8800

Fax: 04-7132-8806

Email: info@konbukuroike.com

URL: <http://www.konbukuroike.com>

2022年11月

第103号

主な予定

旧吉田家住宅公園
ツアーガイド

11月11日(金)

9:10~10:00

きのこ観察会

川瀬 美幸

2022年10月16日(日) 午前10時~正午まで

- 天気：午前9時頃 19.1℃曇りのち晴れ 風速東北東 0.8m/s
- 講師：A班 小泉敏彦先生 B班 根田仁先生
- 参加者：一般参加者31名(うち子ども14名)、NPO 17名、協力者1名(千葉菌類談話会)

今年は10月に入り雨が続いたおかげで、森の中は適度に湿度が保たれ、きのこ発生に期待が持てそうな状況で観察会当日をむかえた。

A班はこんぶくろ池方面、B班は弁天池方面からスタート。森の中ではナラ枯れが去年よりさらに進んだ状況であったが、直前に今年度のナラ枯れ調査を実施していたおかげで、被害木がマーキングされて分かりやすく、なるべく近付かないよう参加者を誘導することを心がけた。



A班 小泉先生



B班 根田先生

ナラ枯れはカシノナガキクイムシが大量に生きた木に入ること、急速に木を枯らしてしまう樹木の病気だ。カシノナガキクイムシのメスが背中の穴に菌を入れて運び、材の中で共生菌(カビ)を栽培して幼虫の餌にする。木を枯らすのは虫が持ってくる菌類で、虫は直接木材を食べることができないが、菌類を巧みに利用して分布を広げてい

る。こんぶくろ池の森ではコナラへの被害が数年前から発生し、現在も進行中だ。

このような被害木の菌類を食べるきのこが今話題のカエンタケだが、今年はカエンタケの発見は無かった。かわりに同じように菌類を栄養にしているハナビラニカワタケがよく見られた。カエンタケは手で触る事も危険だという猛毒きのこだが、逆にハナビラニカワタケは美味しいらしい（私はまだ食べたことが無い）。

参加者は家族連れが多く、きのこ好きなお子さんも多数参加し積極的にきのこを探す姿が見られた。集中力を切らさず最後まで講師の話をも熱心に聞いているお子さんもいて感心させられた。



左から、ハナビラニカワタケ、白色腐朽菌に覆われた切株、ベニタケの仲間

きのこ（菌類）は植物や動物遺体などから栄養をとり土に戻す腐生菌（ふせいきん）や、植物の根に菌根（きんこん）をつくり、植物と栄養のやりとりをする菌根菌（きんこんきん）、他の生きものから栄養をとる寄生菌（きせいきん）など、生き方の違いがある。

森の中では、切り出した木材が菌で真っ白に覆われていたり、落ち葉がマット状の白い菌糸で連結されていたりと、腐生菌を実際に観察することができた。また、ベニタケなどの菌根菌を見ながら周囲の樹木を確認し、どの樹木と共生関係にあるのか根っこを追ってみた。

菌類は菌糸が胞子を発生させるために子実体（しじつたい）をつくり、それが私たちの目には「きのこ」として初めて認識されるが、目に見えないところでは、枯れた木や落葉に菌糸をいっぱい張り巡らせ、土の中では樹木の根を辿り菌糸を長く伸ばしている。

腐生菌が分解した栄養を、次に菌根菌が集め植物に受け渡すという、森の大きな栄養の循環をきのこが担っている。

毎年同じ日に実施するきのこ観察会ですが、気温や降水量、日当たりなどで発生状況が変化しているように感じる。いつも見ていたきのこが今年は見かけないものもあり、このまま消えてしまうのではないかと心配になったりもする。でも、菌糸はひっそりどこかで生きていて、じつときの出す日を待ちわびているのかもしれない。きのこは本当に謎が多い生きものだ。

きのこ観察会にかかわっていただいた会員の皆様、ご協力いただきありがとうございました！ 今年も雨が降らなくて良かったです！！



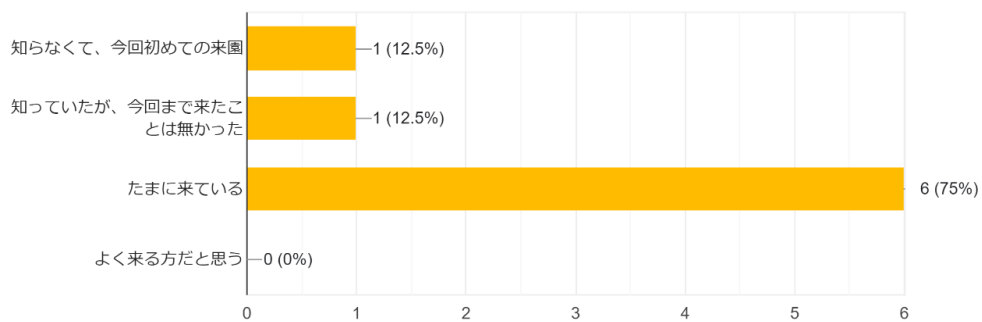
森で採集したきのこを観察しながら先生の解説を聞く様子（左：A班 右：B班）



アンケート結果

こんぶくろ池自然博物館への来園は？

8件の回答



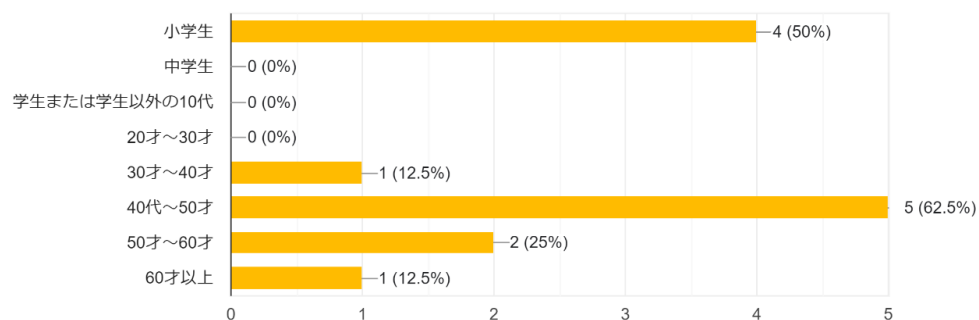
今まで、こんぶくろ池のホームページを見たことがありますか？

8件の回答



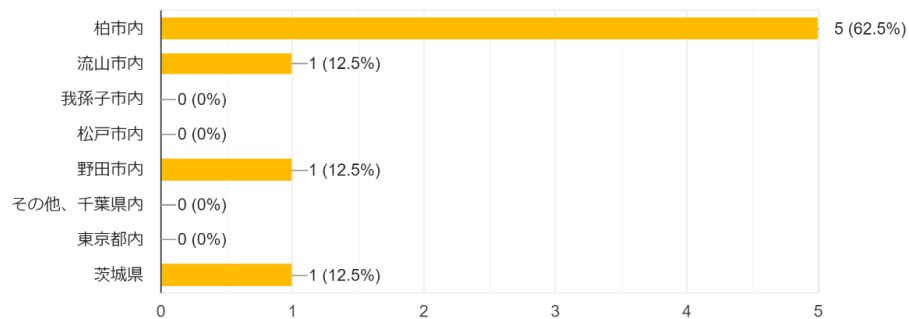
参加者さんの年齢を教えてください

8件の回答



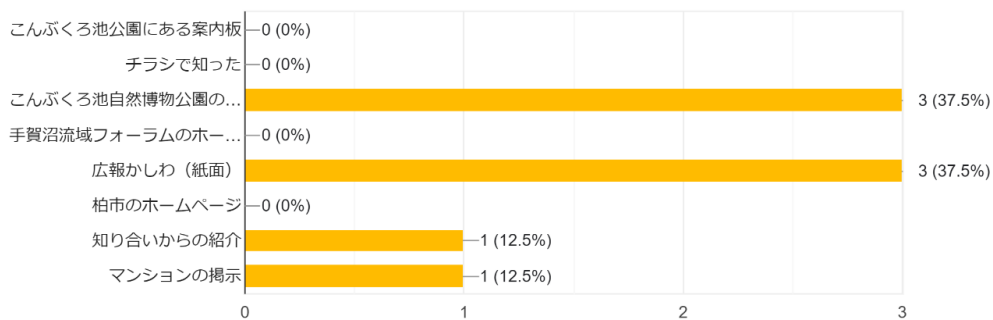
居住地を教えてください

8件の回答



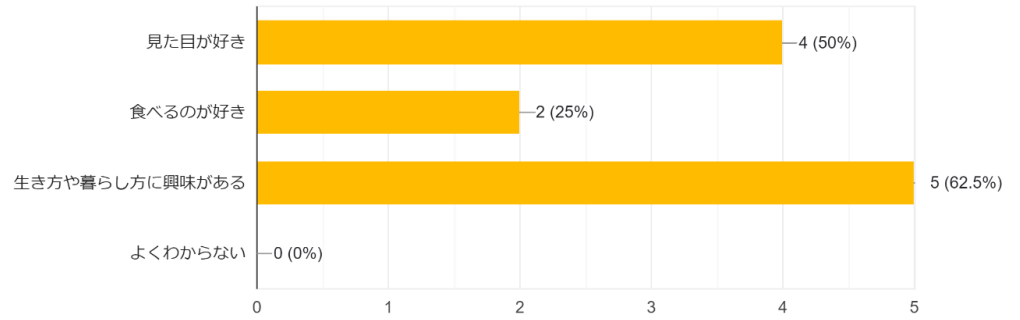
質問：きのご観察会を何で知りましたか？

8件の回答



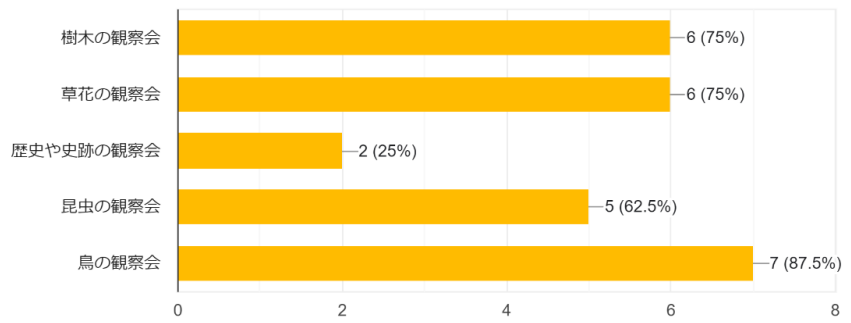
あなたにとって、きのこの魅力は？

8件の回答



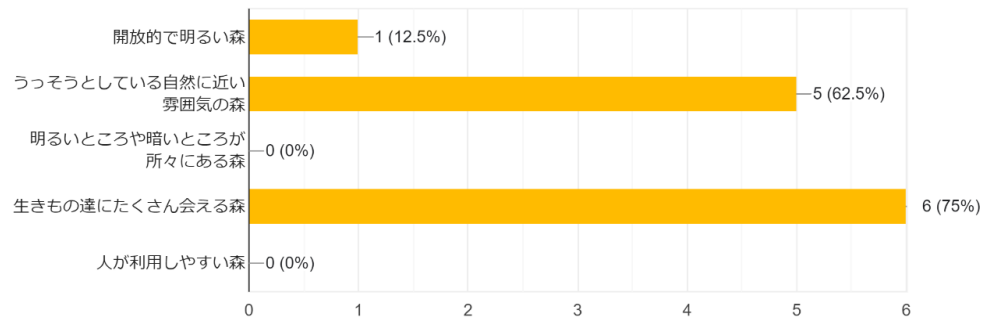
こんぶくろ池で参加してみたい観察会は？

8件の回答



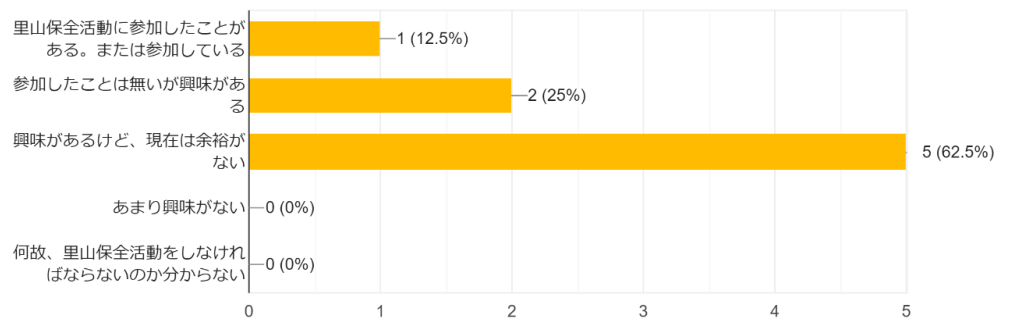
こんぶくろ池の森がどんな森だと嬉しいですか？

8件の回答



森の里山保全活動について

8件の回答



きのこ観察会に参加していかがでしたか？（どんなことでも書いてください）8件の回答

きのこを見つけるのはもちろん、きのこの名前だけでなく少し踏み込んだ難しい話も先生から聞くことが出来て面白くて楽しかったです。

東京農大の先生のお話がとても分かりやすく興味深く素人にも楽しめました。子供は自然には興味がありましたが新たにキノコにも興味をもつことができました。大人も先生のお話が魅力すぎて、キノコについて知識を深めたいと話しています。

講師の先生のお話がとても興味深かった。菌根菌、腐生菌の存在を知り、森全体を保全することの大事さを感じることができた。

初めて見るキノコばかりで、先生の説明を聞きながらの観察会はとても、貴重な経験でした。子供達にとっても、生きた学習の機会になり、キノコをみつけたり、触ったり、菌糸がけむりのようにでてくるようすをみたり、ワクワクドキドキでした。改めて、こんぶくろ池自然公園の魅力を知りました。お散歩の楽しみが増えました。本当にありがとうございました。

きのこの種類、生態が学べて勉強になりました。

5歳と2歳の子供と参加しましたが、2人には難しいかな？と思っていましたが、そんなことなく2人なりにきのこには色々な色や形があることを学んでいた気がします。そして、スタッフのみなさま、親が一人だけだったのに子どもたちを温かく見守っていていただきありがとうございます。

息子がきのこに興味があり一緒に参加しました。都会の中の非日常的な空間で自生しているキノコを探すのは宝探しのよう楽しかったと息子は言っています。私はこの年齢になると新しい事を学ぶ機会が少なくなるので、脳にも身体にもとてもよい刺激になりました。ありがとうございました。

※「きのこで一句」という題目で俳句を募集したところ、参加者から素敵な作品が寄せられましたので、秋の句会歌会に投稿させていただきます。

10 月理事会

(日時) 2022 年 10 月 16 日 (日) 14:00~16:30

(場所) 管理事務所

(出席者) 議長 (理事長) : 岡本

出席理事 : 中川、徳永、萩原、上田 (書記)

1. 審議検討・確認事項

- (1) 2022 年度第 2 四半期の会計報告が理事長から行われた。
- (2) (11 月開催)「里山保全活動体験会」の準備状況について
 - ・ チラシ配布状況、今後のスケジュール、申込受付等について確認を行った。
 - ・ 10/17~31 にパレット 柏にて開催される<柏市里山活動団体ポスター展>にポスター (A2 版) の展示とチラシの設置も行われる。
- (3) 「(千葉学ブックレット) 池物語」増補版発注に向けての準備状況について
 - ・ 今後、アドバイザーの先生への原稿依頼を行うとともに、訂正が必要な箇所、追記文についてはアドバイザーの先生方に確認をお願いし、12 月には入稿を予定している。
- (4) カシニワ・フェスタ 2023 に向けての対応について
 - ・ 10/7 までの実行委員の募集には応募しなかった。
- (5) 「柏ネイチャークラフト展 2023」への出展依頼対応について
 - ・ 2023/2/11~19 あげぼの山農業公園 資料館 2 F にて開催
 - ・ 鳥の巣箱の出展を要請されている。
 - ・ 竹トンボ、鳥のキーホルダーなど、会員から出品やアイデアを募集する。
- (6) KADOKAWA ウォーカープラスへの当園紅葉情報掲載依頼への対応について
 - ・ 当方の作業負荷ゼロの模様であり、応諾する。
- (7) 会員から保全活動外の園内調査活動申込受付時の対応について
 - ・ こんぶくろ池自然博物公園内での調査等の活動を NPO で把握するため、会員が学術等の目的で当園での調査を行う場合にも、大学等が当園で学術的な調査を行う場合と同様の届けを NPO に提出するものとする。柏市と NPO 間で、大学等が当園で学術的な調査を行う場合は、NPO に届けを提出することは確認済みである。
- (8) 来年度の執行部体制について
 - ・ 現理事の任期は今年度で終了するので、理事の人数の増員等も含め、来年度の執行体制について継続検討する。

(9) 11～12月活動計画

- ・ 12月の合同活動日には、両班の合同で、事務所・倉庫の大掃除を行うことを確認した。

(10) 11月の通信記事

- ・ 担当者より報告を受けた。

2. 報告事項

(1) 園内伐採木及び竹等の活用について

- ・ 園内伐採木及び竹等をさらに活用し、来園者も会員も楽しめるような利用方法を模索したい。ただし、利用者の安全面、「持ち出さない、持ち込まない」の原則を踏まえた検討が必要である。
- ・ 春のタケノコ掘り、ゼンマイ、フキの採集を促進すると、駆除作業の軽減や活動の楽しみにつながる。具体的な実施方策については今後検討する。

理事会の議事録は管理棟のファイルにて確認できます。

編集後記

きのご観察会で今年の大きなイベントはすべて無事終了しました。ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

約3年間、コロナ禍でのイベント開催を手探りで行ってきましたが、コロナはまだ終息していないものの、消毒やマスク着用など感染対策、安全対策をしながら徐々に以前に近い形でイベントが開催できるようになってきたのは嬉しいことです。

きのご観察会は、調査も兼ねてNPOが10年以上継続的に行ってきたイベントであり、また一般の方々からも大変人気の高いものです。今年も多く参加希望をいただきながら、抽選で選ばせていただいた31名の方にご参加いただくことができました。

そのうち8名の方がアンケートにも協力いただきましたが、母数としては小さいため全体を反映した結果ではないかもしれませんが、貴重な示唆を頂けたのではないかと思います。

希望する観察会で一番人気があったのが鳥の観察会、次いで樹木、草花でした。

また、「こんぶくろ池の森がどんな森だと嬉しいか」という問いに対して、開放的で明るい森という答えよりも、鬱蒼としている自然に近い森という回答が多かったことは、我々が行う森の維持・管理方法を考えるヒントであるとともに、活動内容の発信の仕方なども考えていく必要があるのかもしれないなと思いました。(萩原秀夫)